

「先進・革新蓄電池材料評価技術開発 基本計画（案）」に対するパブリックコメント募集の結果について

平成 25 年 5 月 1 日
NEDO スマートコミュニティ部

NEDO POST 3 において標記基本計画（案）に対するパブリックコメントの募集を行いました結果をご報告いたします。
みなさまからのご協力を頂き、ありがとうございました。

1. パブリックコメント募集期間

平成 25 年 3 月 8 日～平成 25 年 3 月 21 日

2. パブリックコメント投稿数＜有効のもの＞

計 1 件（以下、項目ごとに分類し記載しております）

3. パブリックコメントの内容とそれに対する考え方

ご意見の概要	ご意見に対する考え方	基本計画への反映
<p>研究開発の目標</p> <p>[意見 1]（1 件） 全固体に関しては、まだ、新材料の研究開発とセットで各種プロセス技術の検討が進められている状況にあります。このような研究色が強い今の状況を踏まえると、評価に値するモデル電池を安定的に試作できるプロセスを確立するまでには、まだかなりの時間がかかると予想されます。また、研究活動だけではサンプルの合成量も少なく、評価に値するサンプルを提供できるのか、少々疑問に思えます。上記より全固体電池は 2017 年度からスタート出来るくらいの時間感覚を持っています。2017 年度を目処にモデル電極を設定し、評価技術を詰めるという目標は時期尚早ではないでしょうか。</p>	<p>[考え方と対応]</p> <p>貴重なご意見をありがとうございます。 ご指摘の通り、全固体電池の評価技術の開発はチャレンジングな目標であると認識しており、直ちに大型電池での評価が出来るとは考えておらず、サンプルの使用量も少ない小型電池での評価から取り組むことを考えております。なお、本事業は 10 年事業として取り組みますので、第 1 期で課題が残された場合は、2018 年からの第 2 期においても全固体電池を取り扱うことを考えております。</p>	<p>[反映の有無と反映内容]</p> <p>特になし。</p>

研究開発の実施方式 研究開発の実施体制		
<p>[意見 1] (1 件)</p> <p>全固体電池の評価技術開発のためには、固体電解質や全固体電池用活物質の研究開発を実施しているメーカーがもっと参画している状況が必要と考えますが、いかがでしょうか。</p>	<p>[考え方と対応]</p> <p>貴重なご意見をありがとうございます。 ご指摘の通り、固体電解質や全固体電池用活物質の研究開発の知見は必要と考えています。ご指摘の意見を踏まえ、今後公募を行って参ります。</p>	<p>[反映の有無と反映内容]</p> <p>特になし。</p>
<p>[意見 2] (1 件)</p> <p>日本の全固体電池の技術が、将来にわたり世界をリードしていくためには、無機材料の薄膜積層化のコア技術を持っている企業（粉体メーカーやガラスやセラミックス材料メーカー等）を巻き込み、研究開発のスピードを上げる仕掛けが必要と考えますが、いかがでしょうか。</p>	<p>[考え方と対応]</p> <p>貴重なご意見をありがとうございます。 ご指摘の通りと考えます。NEDO でもご指摘の点を考慮の上、全固体電池の研究開発に取り組んでおります。引き続き、研究開発のスピードを上げられるよう、取り組んで参ります。</p>	<p>[反映の有無と反映内容]</p> <p>特になし。</p>

以上